

JRC2011 合同特別講演 1

「DNAと骨から探る 日本列島人の成立」

演者：齋藤 成也氏 (国立遺伝学研究所 教授)

司会：荒木 力 (山梨大学医学部放射線医学講座 教授)

会場：パシフィコ横浜メインホール

2011年4月8日(金)

13:30 ~ 14:20



会員へのメッセージ

日本列島は、美しい弓を張った形をユーラシアの東側に突き出しています。この地理的位置のために、古来いろいろな経路から人々が渡来してきました。こうして成立した日本列島人は、縄文系の人々と弥生系の人々が大きくかかわっています。北九州から関西までの地域に特に多く移住して人口を増やしていった弥生人は、沖縄から北海道まで広く薄く分布していた縄文人を分断しました。このため縄文系の遺伝子は北海道の先住民アイヌの人々に特に色濃く、次に沖縄の人々に濃く残っています。この縄文系と弥生系の遺伝子の分布の違いから日本列島人の成立を示した「二重構造説」は、骨やDNAの研究から、大筋としては正しいことがわかっています。しかし歴史時代に入ってから、北にはオホーツク人が、南にはおそらく中国南部の人々が、また日本海側には沿海州などいろいろな東アジアの人々が日本列島に移住して、遺伝子を残した可能性が指摘されています。最近急速に研究が進んでいる SNP (単一塩基多型) データからどれだけのことがわかっているのかをお話します。

演者プロフィール

1957年福井県生
福井県立藤島高校卒
東京大学理学部生物学科人類学課程卒業
米国テキサス大学ヒューストン校医学生物学大学院修了 (Ph.D.)
東京大学理学部人類学教室助手を経て 1991年国立遺伝学研究所助教授
2002年より同教授 総合研究大学院大学生命科学研究科遺伝学専攻教授と
東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻教授を兼任
日本学術会議会員日本進化学会会長

